科目名				学年
社会科学Ⅰ：Social Science Ⅰ				5EC
教員名	高橋正和：TAKAHASHI Masakazu			
単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
1	100分×15	必修	講義・後期	○

授業概要	
	哲学の探求する知は、科学的知とも日常の常識とも異質である。哲学は自明性や自然らしさを装ってそこにあるものに、改めて考察のまなざしを向ける。たとえば、普段最も身近な「あること」という事態、ことば、身体、知覚体験はわれわれの目から隠されているがゆえに、ことさらに目をむけ、それをあらわにしなければならない。また知ることそのことの構造、思考、判断、否定、可能世界について哲学的なアプローチを試みる。「人間とは何か」について根本から探求することを全体のテーマとする。

到達目標	評価方法
(1)「人間とは何か」を問い、人間存在についての知見を深める。(2)「存在」についての考察に基づいて、その視点から事柄を追求できる。(3)「言葉と認識」について、その関係に関する理解をもつことができる。(4)「科学と真理」を哲学的に考察できる。(5)地球文明的な視点から多元的な幅広い思考ができる。	定期試験70%、レポート15%、自学自習レポート15%として総合評価する。

学習・教育目標	F③④	JABEE基準1(2)	(a)

授業計画

回	項目	内容
第1	はじめに	哲学とはどのような営みか。
第2	「存在」をめぐる考察	存在命題(ハイデガー、ウィトゲンシュタイン、アリストテレス)を説明する。
第3	存在と認識	存在理解と人間の本質ーライプニッツ、自然システムと認識システムのちがいについて解説する。
第4	言葉と認識(1)	可能性を開く言葉の力、否定と可能世界について説明する。
第5	言葉と認識(2)	身分け構造と言分け構造の違いについて説明する。
第6	言葉と認識(3)	唯言論ー唯物論・唯心論・唯脳論に対抗して
第7	カントの認識論	コペルニクス的転回の画期的意義
第8	中間まとめ	ここまでの確認のための試験
第9	人間学思想(1)	(1)人間原理論と宇宙論
第10	人間学思想(2)	(2)M.シェーラーの哲学的人間学
第11	人間学思想(3)	(3)生物学的人間学
第12	科学哲学的考察(1)	西欧近代科学の成立について説明する。
第13	科学哲学的考察(1)	T.クーンのパラダイム論について説明する。
第14	科学哲学的考察(1)	自然観の変遷と地球学的文明論について解説する。
第15	総合演習	これまでのまとめー人間と自然への問い

自学自習の内容	レポートを課す。
関連科目	現代社会、倫理、法学、社会科学Ⅱ
教科書	プリントを配布する。
参考書	講義の中で例示する。
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う。
副担当教員	
備考	